

# ひまわり

札幌市立幌北小学校ひまわり分校  
札幌市立北辰中学校ひまわり分校  
学校だより



令和7年3月3日

第44号

## ハンター先生と学ぼう！

先週、ハンター先生が分校に来てくれました。今回は、小学校の低学年の子どもたちが授業に参加しました。ハンター先生と一緒に学んだのは、アルファベットの発音に関することです。アルファベットは、「26文字」あります。その中でも単語で使用するとき、発音の仕方が異なる文字が5文字あるのを、このおたよりを読んでいただいている皆さんはご存じでしたか。それは、「c」、「o」、「i」、「g」、「u」です。以下のように単語を例に表記してみると、一文字につき、2つの発音と3つの発音があることをハンター先生は教えてくれました。（外国の方のネイティブな発音は、違いがすぐに分かりますね。）



※ここで表記している英単語は、一例です。

「c」 ← Could(クウドゥ)  
Ceremony(セレモニー)  
Cake(ケイク)

「o」 ← Octopus(オクトパス)  
Old(オールド)

「i」 ← Ink(インク)  
Ice(アイス)

「g」 ← good(グッド)  
gym(ジム)

「u」 ← understand(アンダースタンド)  
universal(ユニバーサル)

26文字ある中で、5文字も発音の仕方が異なる文字があることを学びました。ハンター先生は、「日本の平仮名は、表記の文字（46文字）において異なる発音をする文字がないのが日本語のよいところ。」だと話されていました。また、一番難しいのが「漢字」だそうです。それは、「一つの漢字には、いくつもの読み方があり、意味も違うから大変！」との理由でした。



最後にハンター先生は、「日本語で平仮名と片仮名の違いは、英語では、単語の文字を全て大文字表記するか、小文字表記するかの違いに近い感覚。」とも教えてくれ、「英語は、アルファベットの文字だけしか使わない。しかし、日本人は、平仮名も片仮名も漢字の読み書きができるからすごいです。」と話されていました。そんなハンター先生でしたが、英語の楽しさをいつも子どもたちに伝え、日本語をすらすら話します。ハンター先生が「一番すごいなあ。」と感じた時間でした。

### 小学校の教室から（理科実験）

小学校の高学年教室と低学年教室が同じ時間に、理科の実験を行っているときがありました。高学年は「電気と私たちの暮らし」、低学年は「じしゃくにつけよう」の学習です。高学年は、発電機を回して蓄電してから、豆電球を光らせたり、オルゴールを鳴らしたり、モーターを回すなど、電気が「光、音、動く」を生み出す（変換）ことを体感しました。低学年は、磁石を容器に入れて水に浮かばせ、もう一つの磁石を近づけてN極とS極の関係性を調べました。実際に行う実験は楽しさから学びが生まれますね。



**お知らせ** ◎4日（火）は、ALT（ハンター先生）の来校日です。